



想うベンチ

—いのちの循環—

大阪・関西万博 Co-Design Challenge プログラム

大阪の森を
知る・感じる

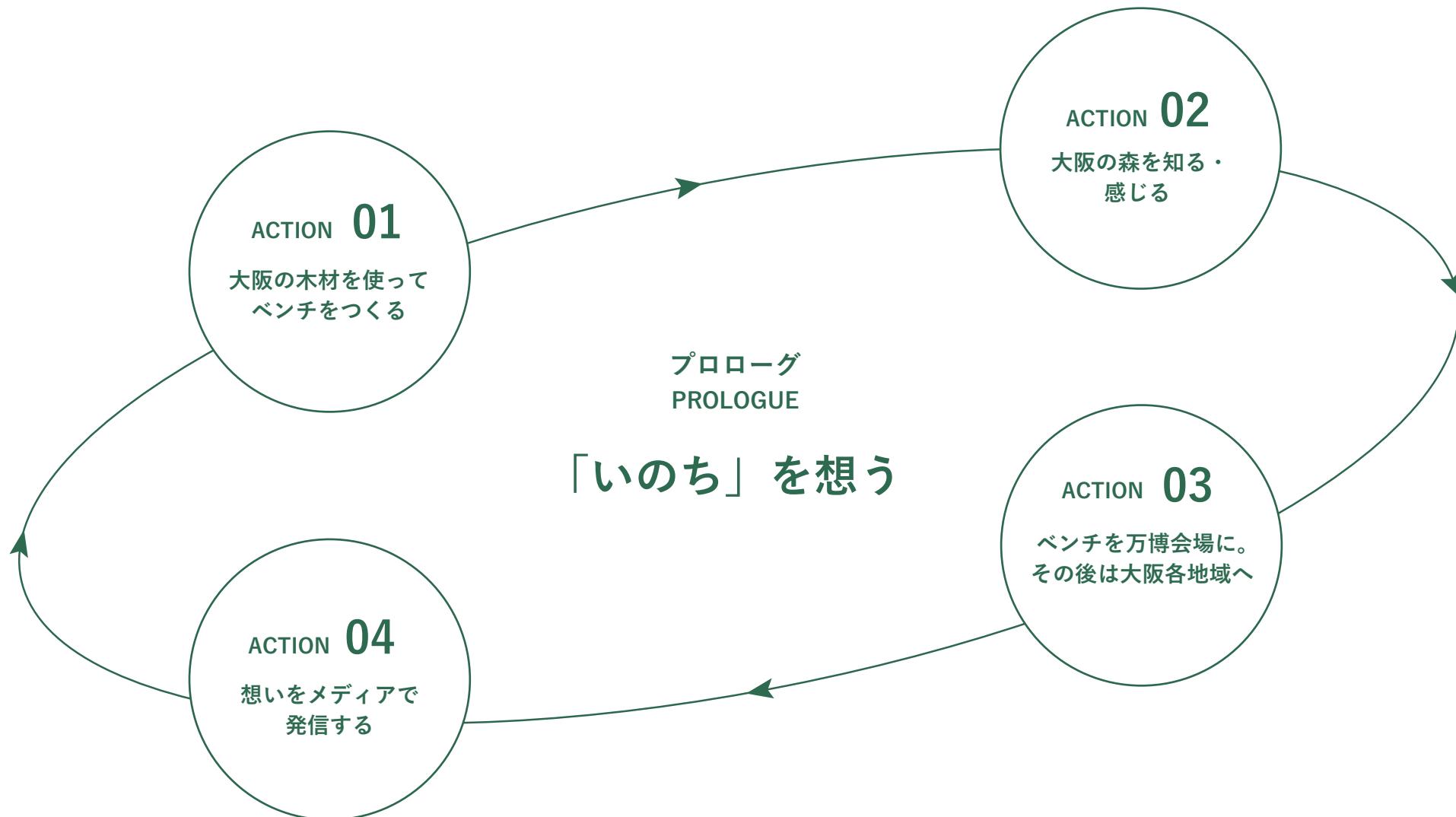
ベンチに座って
「いのち」を想う。



「いのち」を
想う



プロジェクトがやってきたこと



「いのちの循環」について考える

いのちを「想う」

「いのちの循環」座談会を開催。

2025年大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。そしてこの「想うベンチ」プロジェクトのサブタイトルは、「いのちの循環」。ひとのいのち、まちのいのち、自然のいのち……いのちが循環するってどういうことだろう？ デザイナー、都市デザイナー、大阪府林学職、宗教学者の4名に語っていただきました。



「いのちの循環 座談会」



プロローグ

「いのち」を想う

想うベンチ

– いのちの循環 –

「木」と「樹」の違いは何なのか。

当プロジェクトはここからスタートしました。

「樹」という文字には、たんなる材料ではなく、

大地に根をはる「生きている木」、「いのち」の意味があります。

それぞれの、いのち。

地球、樹、伐採する人、ベンチを作る人、ベンチに座る人・その目の前にいる人……

ベンチに座り、それらの「いのち」に想いを巡らす。

ベンチを通して、当プロジェクトに関わった人の想いが
場所と時間を超えて、つながる、ひきつがれる。

街や森の「いのち」を見つめる

いのちを「想う」

地域の街や森で活動する方々を取材する。



大阪の街の人たちが感じる「大阪らしさ」とは。学生から農家、ショップ店員など、それぞれの視点で語っていただきました。



大阪の森は、地域の人たちにとってどのような存在なのか。大阪の森をフィールドに活動する方々を訪ねました。

「私の大好きな“大阪”」



「森での私たちの活動」



大阪の木材を使ってベンチをつくる

当プロジェクトに関わった
大阪の2つの製材所

地域の木材を使う

地域を「想う」



大阪の森や原木市場へ。

「大阪の森」や「大阪の木材」と口にはするものの、実際どんな場所なんだろう、そこでどんなふうに樹が育っているのだろう。「想うベンチ」をデザインするメンバーたちが大阪・南河内の森や原木市場を訪問。この日にそれぞれが感じた「想い」をどう形にしていくのか。ベンチづくりのスタートとなりました。



森への訪問記事

樹を余すところなく使う

樹のいのちを「想う」



樹をいのちあるものとして向き合う。樹のためのデザインでベンチを制作。

TREE



一本の樹をありのまま

樹と人の関係とは。そんなことをあらためて考えるきっかけになればとの想いで、山にある樹の姿を想像できるデザインに。一本の樹で座面と脚をつくり、切り込みを入れて乗せるミニマムな構造。

C/D
Bench



均一ではない木材に、 新たな可能性を

シミや節が多い「C材」、利用されることなく伐採されたまま林地に残される「D材」。これまで活用の機会が限られていた木材を、個性豊かな木材と捉えてデザイン。細分化し、並べ替えることでその個性を表現。

FILLET



樹の経過に想いを馳せる

森で何十年と生きてきた樹は、切り倒された瞬間に「材料」になる。そのことを改めて感じることが命を大事にすることではないかとの想いで、あえて「材料」の形でベンチに。乾燥工程を万博会場で行うチャレンジも。



松葉善製材所 松葉義朋



田中製材所 田中由虎



製材所
インタビュー

産業の一部としての木の仕事を、新たな道筋へと再構築したい。そんな想いで、3名のデザイナーと共に価値を再生する試みでした。全ての人々が木の為に何ができるのか。山を想い、木と共にある暮らしに、願いを込めています。



「想うベンチ」プロデューサー
服部滋樹

大阪の森を知る・感じる

大阪の森の歴史を知る

大阪の森を「想う」

“大阪の森”はどのように人と関わり、どのような変遷をたどってきたのか。



まちに近い森として、変化し守り継がれてきた大阪の森の過去・現在・未来を、大阪府森林組合の代表理事組合長・栗本修滋さんに伺いました。



森林管理の仕事を通した
大阪の森への想い。



「5年後10年後にあらわれるんです、そのときの仕事ぶりが」という大阪府森林組合・堀切修平さんにインタビュー。



木に触れる、暮らしで使う

大阪の森を「想う」



大阪の森の木でスプーンを作る
ワークショップを開催。



阪急うめだ本店での
ワークショップレポート



事務局メンバーの
ワークショップ体験と
米地さんへのインタビュー

大阪の森にはなかなか行けなくても、大阪の木に触れ、暮らしの中で使うことで森を「想う」こともできるのでは。という想いから、大阪市平林で木への親しみや木の文化の理解を深めるための木育を実践するNPO法人木育フォーラムと、「想うベンチ」プロジェクトのコラボレーションワークショップ『大阪の森の木でスプーンを作ろう!』を企画。阪急阪神百貨店や大阪各地域のイズミヤショッピングセンターなど13箇所、さらには万博でも実施。600名を超える皆さんに参加いただきました。

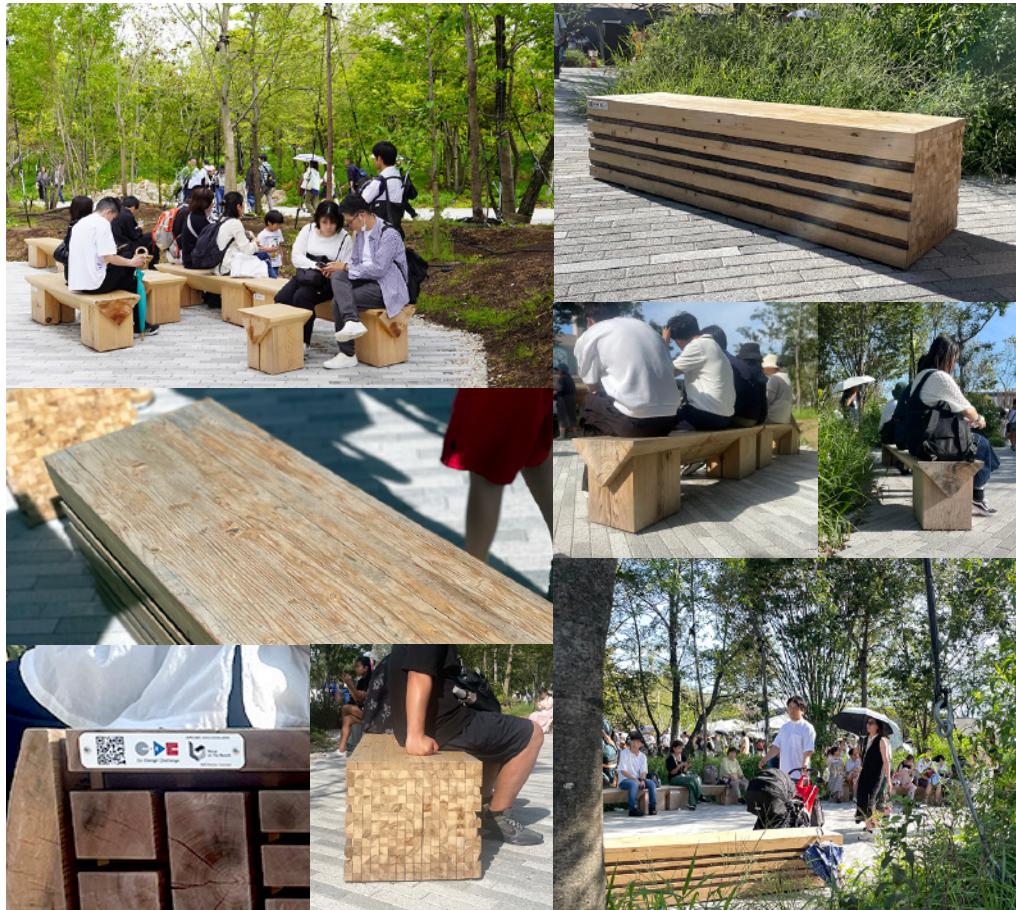


木育フォーラム代表 米地徳行

ベンチを万博会場に。その後は大阪各地域へ

ベンチを万博会場に設置

大阪から世界へ「想い」をつなぐ



ベンチの二次元コードから会場を訪れた方々にも「想い」を共有。

大阪・関西万博の期間中は、「想うベンチ」は万博会場の中心に作られた「静けさの森」に設置されました。ベンチにつけられた二次元コードから、プロジェクトサイトへ。ベンチ制作のプロセスやプロジェクトに関わる方へのインタビュー、想うライターの記事など、プロジェクトの「想い」を届けました。

地域で使う

地域に「想うベンチ」を

座った方々がさまざまなちを想う、「想うベンチ」の存在に。



とよなか文化幼稚園

大阪府豊中市

想うライターの取材がご縁で、ベンチを引き継いでくださることに。園庭にある大きなイチョウの木や、木を作られた園舎とともに時間を経て変化していく存在に。

想うライターによる幼稚園理事長
松田総平さんへのインタビュー



伊丹森のほいくえん

兵庫県伊丹市

小さな森を育成中の園庭に置かれたベンチ。園児たちのおままごとの場になったり、先生たちが座って作業をしたり、お迎えに来た保護者の方が座ったりして新しいシーンを生み出しているそう。



新檜尾台小学校

大阪府堺市

地域ぐるみでつくる児童の探求の場、「オリーブの森」に設置。ベンチに座った景色にはオリーブの樹や小さな虫が。引き継ぎ式では制作を担当したgrafよりベンチのお手入れの話も。

小学校にオリーブ畑をつくった
北野緑生園 北野裕之さんインタビュー



上記の引き継ぎ先を
取材した記事はこちら

他にもこんな場所へ

- ・医療法人社団誠和 犬田病院（福岡県福岡市）
- ・エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社（大阪府大阪市）
- ・SETAGAYA Qs-GARDEN（東京都世田谷区）

想いをメディアで発信する

ウェブメディアで発信

「想い」をさらに巡らせる

大阪府民が「想うライター」として“いのち”をテーマに記事を執筆。想うことでさらに広がる。



プロジェクト
サイト

万博開始約1年前の2024年6月に公募を実施。集まった約20名の大阪府民の方々が「想うライター」として、編集のプロと共に月2回の編集会議を行いながら、「私が感じる“いのち”とは」を考えることから始まり、企画・取材し、約半年間かけて記事を制作。プロジェクトサイトに掲載しています。

「想うライター」



森にも足を運び、
最後は万博の「想うベンチ」前に集合も。

住む、働く、学校に通うなど、大阪で過ごしているものの、「大阪の森」「大阪の木材」と聞いてもいまいち“遠い”存在と話す「想うライター」のみなさんを、大阪府森林組合・堀切さんが大阪の森へ連れて行ってくださいました。

「想うライター」
森訪問レポート



活動終了後、せっかくなら「想うベンチ」をみんなで見ようと、2025年6月中旬、大阪・関西万博会場に集合。ベンチを囲んで、この活動に関わった想いなどについて語り合いました。

「想うライター」
集合イベントレポート

「想うライター」記事一覧

重なる、
繋がる、
竹と私と...

我が町、
十三と仲良くなりたくて。
Dynamite Town Me, That's Why

かやくご飯と
わたし 道頓堀の食事で

なにわ伝統野菜に繋ぐ命
Vol.1 なにわ伝統野菜を収穫できちや。

響き合ういのち
大フル音会にさくら音楽の「調和」

靴と、その生き方。
Shoes and a way of life

星空を見ると
包み込まれるような
気持ちになるのは
なぜか

物語を創るのか

Interview
白と黒でいのちを描く
本家智衣 Mai Hosaka

言語の壁を超えるとは?
英語支援員という職業

「犬」という
やわらかな縁

意外と近くにあるやん!
「私が私に還る場所」

「脳内昆虫」を
手放す

子どもの主体性をはぐくむって
どういうこと

心もお腹もあったまる
昔ながらの石切参道商店街へ

料理をつくる。
食べる。
私の身近な家庭料理をめぐる旅

水は命の源。
Water the Source of Life

あなたがここに
座っている
理由は?

風を待つ

「想うベンチ ーいのちの循環ー」プロジェクト

運営 ----- エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

パートナー ----- 株式会社 スークカンパニー
一般財団法人 大阪府みどり公社

運営協力 ----- なりわいカンパニー株式会社

協力企業・団体 ----- graf

Fumihiro Sano Studio

Shizuka Tatsuno Studio

大阪府森林組合

田中製材所

松葉善製作所

株式会社 彩ユニオン

大阪府立佐野工科高等学校

飛騨産業株式会社

NPO 法人木育フォーラム

プロジェクト企画・運営

渡邊学 全体統括
西田哲也 プロジェクト統括
島本礼子 プロジェクトリーダー¹
中嶋美和子
吉田玲子

ベンチ制作

服部滋樹 プロデューサー
宇野新治 コーディネーター
松澤康之 コーディネーター
薬師寺徹 コーディネーター
堀切修平 現地コーディネーター
佐野文彦 デザイナー
辰野しづか デザイナー
松井貴 デザイナー
松葉久義 製材
松葉義朋 製材
田中由虎 製材
田中良平 製材
森川嘉之 制作
服部智樹 制作

有田佳浩 プロデューサー・ロゴ制作
桂知秋 編集ディレクター・ライター
小林知亞季 編集ディレクター・ライター
山本しのぶ 編集ディレクター
松本理恵 編集サポート・ライター
新川和賀子 編集サポート・ライター
清水未生 画像制作
嶋田あや 画像制作
成田知子 ライター
八木菜摘 ライター
川本まい 撮影
名原周治 - 株式会社ジャム・デザイン ウェブデザイン
武曾晋吾 - 株式会社ジャム・デザイン ウェブデザイン
森崎真琴 - FUZE.LLC ウェブデザイン
Aizawa Kimiko - Womencanfly 英訳

ワークショップ

湯川カナ プロデューサー
中嶋美和子 運営
樹井ひとみ 運営
米地徳行 - NPO法人木育フォーラム 講師

想うライター

石川朋美
うえだきよこ
大野夏凜
岡村美由紀
おながわるみ
加藤茉莉
木村綾賀
清水夏奈
菅野ありさ
杉浦里音
田川優
田中花咲音
多田菜乃
西倫世
古市麻依
服部光沙
藤川茉莉圭
マツイサヨコ
松野円
吉田祐祐

取材協力

大内秀之
兼田一茂 - 大阪市河川・渡船管理事務所
小林亜希子、福田えりみ、福山修 - 大阪フィルハーモニー交響楽団
神峯山寺
菊川光徳 - アウトドアショップ「ソトゾ」
北田裕士
北野裕之 - 北野緑生園
栗本修滋 - 大阪府森林組合
コリンスミス
佐野友美 - 高槻市「SHEEPかれーHOUSE」
杉田真理子
釈徹宗
田中尚美 - 東大阪市立児童文化スポーツセンター
タマンチリンドルマ
近田信一郎 - 大阪市水道局工務部 柴島浄水場
直木三十五記念館
中峰空 - 箕面公園昆虫館
中山順女 - 大阪コリアタウン「キムチのふる里」
信貴聖玉
濱田農園

本家雅衣

松岡優希
松田総平 - とよなか文化幼稚園
牟田麻希 - NPO法人淀川アートネット、CAFÉ YUTTE (カフェ ユッテ)
山口真由 - 森のようちえん もりねっこ
湯川友太

行夏樹 - 大阪公立大学大学院 工学研究科 石山研究室

吉田哲
四代目辻竹雲斎

イベントファシリテーション

木田隆子 デザインジャーナリスト / エディトリアルディレクター

ベンチ引継ぎ場所

新檜尾台小学校 (古谷俊之校長)
伊丹森のほいくえん、とよなか文化幼稚園 (松田総平理事長)
医療法人社団誠和会 牟田病院 (牟田和正理事長)
SETAGAYA Qs-GARDEN

special thanks

大阪・関西万博の会場でベンチに座ってくれた皆さん

* 敬称略。所属・肩書きは当時のものです

未来へ続く、「想うベンチ」プロジェクト

プロジェクトをどう未来に繋げるか。
「想う」からはじめる、樹と人との新たな関係。



ベンチのデザインに焦点をあてたトークイベント「『想うベンチ』」が問い合わせる未来:樹と人の関係を再構築するデザインの力」を「想うベンチ」設置場所である大阪・関西万博で開催。エイチ・ツー・オー・リテイリング株式会社代表取締役社長の荒木直也、プロジェクト事務局の西田哲也とともに、ベンチのプロデューサーやデザイナーが、それぞれの想い、そしてプロジェクトをどう未来に繋げていきたいかを話し合いました。

トークイベント



こどもたちの未来に 100 年先までつながる循環を。
「大阪 森の循環促進プロジェクト」としてこれからも続いていきます。



「想うベンチ」プロジェクトは、エイチ・ツー・オー・リテイリンググループが大阪府とともに進めてきた、「大阪 森の循環促進プロジェクト」の一環です。これからも、森を健全に保つため、地元木材の使用を増やし、森の循環を促進し、豊かな地域の自然を守り、引き継いでいく取り組みを続けていきます。

「大阪 森の循環
促進プロジェクト」

